

# 投稿

## 小中学校国語教科書での天文分野の文章(2)

### ～小学校平成 26 年・中学校平成 27 年検定済教科書より～

河守博一（静岡県焼津市立港小学校）

#### 1. はじめに

小学校は平成 27 年度より、中学校は平成 28 年度より、改訂された教科書を使用している。その中の国語教科書では、天文分野に関連した文章が幾つか掲載されている。小中学校の児童・生徒は、国語教科書の中で、他の分野の文章とともにこれら天文分野の文章を用いて国語の学習を行っている。本稿は、それら天文分野の文章の紹介である。

なお、現行の学習指導要領に基づいて作成された教科書は、小学校で平成 23 年度（平成 22 年 3 月検定済）より、中学校で平成 24 年度（平成 23 年 3 月検定済）より使用を開始した。そして、現在では小学校で平成 26 年 3 月検定済、中学校では平成 27 年 3 月検定済の教科書を使用している。

#### 2. 平成 26 年 3 月検定済小学校国語教科書

##### 2.1 平成 22 年検定済教科書と共通に掲載

以下(1)(2)の文章が、平成 22 年検定済教科書と平成 26 年検定済教科書に共通して掲載されている。

なお、平成 22 年検定済教科書の内容は、3 年前筆者が本誌で報告した[1]。そのため、前回紹介した文については、その概要を示す。

##### (1) 野口聡一著『宇宙時代を生きる』[2]

著者は、宇宙飛行士としてスペースシャトルで宇宙に 15 日間滞在し、地球を宇宙船外から見る体験を 3 回した。その時の印象は、宇宙船内から見る地球とは全く異なり、地球の輝きに「命」の存在を強く実感したようだ。

そのため、今までとは違う見方で地球や人類を見るようになり、地球や人類について著

者の新しい考えが書かれている[1]。

##### (2) 野口聡一著『宇宙飛行士ーぼくがいだいた夢』[3]

著者は、小学校 1 年生当時の文集で、ロケットの絵とともに「ロケットのそうじゅうしになりたい。」と将来の夢を書いていた。しかし、その夢をずっと持ち続けていて宇宙飛行士になったわけではない。この本には、最後には著者が宇宙飛行士になるまでの軌跡が興味深く書かれている[1]。

#### 2.2 平成 26 年 3 月検定済教科書のみ掲載

##### (1) 藤井旭著『月のかげ絵』[4]

昔の人々は、月表面の模様を見て、人や動物など様々な物の姿や形を想像してきた。この月の模様を、日本ではウサギが餅をついている姿に見立ててきた。しかし、その見立て方は世界各地で異なり、例えば、ガマガエル・カニ・ワニなど 20 以上もある。著者は、その見立て方が異なる理由を、分かりやすく説明している。

同じ満月でも動いていくとその模様の傾きが変化する。そのため、どの時刻の模様に注目するかによって見立て方が変わるようだ。また、月の薄暗いところに注目するか、白い部分に注目するかによっても見立て方が違ってくるといふ。

##### (2) 教育出版小学校国語編集委員会『月のつく言葉』[5]

日本語の中で「月」のつく言葉は数多くあり、昔から日本人は、満ち欠けによって形が変わる月に名前をつけてきた。

その中に、新月・三日月・上弦の月などが

あり、同じ 15 日目の月でも十五夜の月・満月・望月というように異なる名前があることにも触れている。

### (3) 教育出版小学校国語編集委員会『私の大切な1冊』[6]

ここでは、若田光一さんが宇宙飛行士を目指し、その夢を実現して、宇宙飛行士として活躍するまでを端的に述べている。

若田さんは、少年時代に家族旅行で飛行機に乗ったときから、大空を飛ぶことにあこがれを持ったという。やがて、宇宙飛行士になり、国際宇宙ステーションでの長期滞在や、4 回目の宇宙飛行では国際宇宙ステーションの船長を経験したことにも触れている。

## 3. 平成 27 年 3 月検定済中学校国語教科書

### 3.1 平成 23 年検定済教科書と共通に掲載

以下(1)(2)の文章が、平成 23 年検定済教科書と平成 27 年検定済教科書に共通して掲載されている。

なお、平成 23 年検定済教科書の内容は、3 年前筆者が本誌で報告した[1]。そのため、前回紹介した文については、その概要を示す。

#### (1) 小久保英一郎著『月の起源を探る』[7]

月は人類にとって最も身近な天体であり、これまでの月探査によって内部の様子や表面の物質について分かってきた。しかし、月が誕生した理由は、未だ明確ではない。

著者は、現在最も有力な仮説として、46 億年前に地球に巨大な天体が衝突し、その天体の破片から月が誕生したという巨大衝突説を紹介している[1]。

#### (2) 池内了著『「新しい博物学」の時代』[8]

理科系と文化系の壁を取り払い、総合的な観点で物事を見直すと、思いがけない発見をすることがあると著者は言う。

例えば、現代天文学の最新の技術と知識を導入しても、かに星雲の超新星爆発の年が正確に分からなかった。そこで、日本のアマチ

ュア天文家が、鎌倉時代に活躍した藤原定家の日記を丹念に調べたら、超新星爆発が起こった年が正確に分かったという[1]。

### 3.2 平成 27 年 3 月検定済教科書のみ掲載

#### ○渡部潤一著『人間は他の星に住むことができるのか』[9]

「命の星」「緑の惑星」と呼ばれる地球には、生物の命を育む環境がみごとに整っている。しかし、環境汚染・地球規模の戦争・食糧危機・天然資源の枯渇等により、この恵まれた地球環境は永遠に続かないと予想され、将来人類が地球に住むことができない場合もあるといわれている。

そのため、著者は、地球から近い距離にある月・金星・水星・火星をあげて、人類が地球以外の星に住むことができるかの可能性について述べている。

現時点では、いずれの星も人類が住むことができない環境にあるが、火星のみが将来移住できる可能性を秘めていると言う。その方法として、火星の地下に眠っている氷を溶かして海や川を作るため、火星の大気を増やし地表温度を上げるための研究を、科学者が現在進めていること紹介している。

そして、生命が育まれる条件がそろっている「奇跡の星」地球を、まず大切にしていけることが何より重要であると著者は強調する。

## 4. 前回の検定済教科書との比較

前回の検定済教科書での天文分野の文章は、小学校（平成 22 年検定済）で 4 編、中学校（平成 23 年検定済）で 3 編であった。

そして、現在の検定済教科書では、前述したように小学校（平成 26 年検定済）で 5 編、中学校（平成 27 年検定済）で 3 編である。

前回の検定済教科書の『月の名前』[10]、『人類よ、宇宙人になれ』[11]、『冥王星が「準惑星」になったわけ』[12]が掲載されなくな

り、現在では同じ教科書会社の検定済教科書の『月のかげ絵』[4]、『月のつく言葉』[5]、『人間は他の星に住むことができるのか』[9]になった。そして、『私の大切な1冊』[6]が新たに加わった。

文 献

[1] 河守博一(2013)「小中学校国語教科書での天文分野の文章」, 天文教育 2013年9月号, pp.35-41.

[2] 野口聡一, 教科書のための書きおろし, 『小学生の国語六年』に掲載, 三省堂. pp.38-45 (2015)

[3] 野口聡一, 『ぼくのしょうらいのゆめ』(文春文庫)の一部より, 『国語六 創造』に掲載, 光村図書. pp.248-255 (2015)

[4] 藤井旭, 教科書のための書きおろし, 『小学生の国語四年』に掲載, 三省堂. pp.146-151 (2015)

[5] 教育出版小学校国語編集委員会, 『ひろがる言葉 小学国語4上』に掲載, 教育出版. pp.64-65 (2015)

[6] 教育出版小学校国語編集委員会, 『ひろがる言葉 小学国語6下』に掲載, 教育出版. pp.62 (2015)

[7] 小久保英一郎, 教科書のための書きおろし, 『国語3』に掲載, 光村図書. pp.44-50

(2016)

[8] 池内了, 教科書のための書きおろし, 『伝え合う言葉 中学国語3』に掲載, 教育出版. pp.44-49 (2016)

[9] 渡部潤一, 教科書のための書きおろし, 『現代の国語2』に掲載, 三省堂. pp.34-38 (2016)

[10] 教育出版小学校国語編集委員会, 『ひろがる言葉 小学国語4上』に掲載, 教育出版. pp.114-117 (2011)

[11] 立花隆, 教科書のための書きおろし, 『ひろがる言葉 小学国語6下』に掲載, 教育出版. pp.142-149 (2011)

[12] 渡部潤一, 『新しい太陽系』(新潮新書)の一部を書き改めたもの, 『中学生の国語3年』に掲載, 三省堂. pp.40-48 (2012)

河守博一

\* \* \* \* \*